

西村佳哲(働き方研究家)著「自分の仕事をつくる」ちくま文庫 2009年2月10日刊を読む

1. それでも、どんな状況下でも、自分の働き方は自分でデザイン出来る。「今日、どう働くか」は、自分で選択できるからだ。

2. 仕事を「自分の仕事」にするポイントは、仕事に自分を合わせるのではなく、自分の方に仕事を合わせる力にある。この本の最初に、自分を疎外しない働き方を選択できない人が多いのはなぜだろう、と書いた。なぜだろう。わかりやすい例を1つだけ、もう一度掲載してみる。

3. $4 + 6 =$
 $\quad + \quad = 10$

前者は、正解は一つしかないという教育。後者は、正解は無数にあるという教育。正解がどこかに既にあるという教育と、正解はあなたの中でこれから生まれるという教育の違いが、ここにある。成長のプロセスにおいて幾度も与えられたこのような教育や社会経験が、一人一人のセルフエスティーム(自尊感情・自己肯定感情)の育みを妨げてしまうのだろう。

4. かと言って近代教育や、近代と名のつくあらゆるものに反意を述べたいわけではない。そんな暇があったら、まずは手元にある仕事のやり方・在り方を自分で変えてゆきたい。自分の仕事に対するオーナーシップを、常に自分自身が持っていること。その仕事を通じて、学びを拓きつづけていくこと。これらは、この本を書いている僕自身の問題でもあるのです。

P271 ~ 272

[コメント]

仕事とは何か。人生を真正面から考える人の必読書。

- 2009年4月12日林明夫記 -